

「ならなぎ よりみちクラブ」活動報告

報告者： 玉尾 ひとみ

日時	2023 年 6 月 8 日 (木) 10 時 00 分 ～ 13 時 45 分	天候	曇り	コース名： 第 40 回よりみちクラブ
案内団体 又は催事 名	船岡山から西陣の寺社を巡る	人数	大人：17 名	

集 合：京都市営地下鉄 北大路駅南改札口 10 時 00 分

ガイド：ならなぎ会員 山下さん

行 程：北大路駅→（バス）→船岡山バス停→船岡山→建勲神社→船岡温泉→引接寺 千本えんま堂
石像寺（釘抜地藏）→大報恩寺 千本釈迦堂→花街・上七軒→チンチン電車北野線記念碑
→東向観音堂→北野天満宮→解散

出席者…山下(ガイド)・久賀田・木邨・堀内(け)・北川・村上・香西・上森・樋野・嶋田・服部・玉尾(洋)・
竹山・森・嶋村・山口・玉尾(ひ) 計 17 名・・・順不同・敬称略

(見学のポイント)

船岡山

標高 112 メートル(麓から 40～45 メートル)ほどの小さな丘。形が船を伏せたように見えることから「船岡」と呼ばれてきた。平安京北の守り神“玄武”の山であり、平安貴族の散策地であった。

室町時代、応仁の乱が勃発、西軍が船岡山に陣を張ったことから、辺り一帯は西陣と呼ばれるようになる。その後本能寺の変で織田信長が亡くなると一帯は信長の聖地として保護され、明治になって“**建勲神社**”が創設された。現在は眺望のすばらしい公園として市民の憩いの場であり、特に“五山の送り火”の日は鳥居形以外の4つの送り火が見える鑑賞スポットとして賑わう。また国の有形文化財に指定されている豪華銭湯“**船岡温泉**”がある。唐破風造で内装にレトロなマジョリカタイルが貼られ、脱衣場にはケヤキの格天井に配された天狗と牛若丸の彫刻、さらに周りをぐるりと囲む透かし彫りの欄間など、大正・昭和の歴史が漂う。

千本えんま堂 引接寺(せんぼんえんまどう いんじょうじ)

開祖は小野篁で、あの世とこの世を行き来できる神通力を持った平安時代の公家。葬送の地である蓮台野の入口に、閻魔大王をご本尊に祠を建てたのが始まりという。

あの世で苦行をしいられている故人もえんま様の許しを得て、この世に里帰りをする“お精霊送り”おしょうらいさんの塔婆供養と迎え鐘は、今もこの寺で民間信仰が続いている。

釘抜地藏 石像寺(くぎぬきじぞう しゃくぞうじ)

本堂の外壁に釘2本と釘抜がセットになった「御礼絵馬」がびっしり貼り付けられていた。1000枚くらいあるらしい。本尊の釘抜地藏尊は、さまざまな苦しみ抜き取ってくれるとか。

ご利益があったらお礼として絵馬を奉納するという。

千本釈迦堂 大法恩寺

応仁の乱をはじめ、度々の災火でほとんどの堂宇を消失したが、現在唯一残る本堂は、洛中に残る最古の仏堂。国宝。境内のみごとな枝垂れ桜は“おかめ桜”といい、この本堂を建てた棟梁の良妻の物語に由来する。境内の銅造は“おかめ顔”だが、ここのおかめさんが、おかめ面のモデルではないようだ。

花街・上七軒

京都で最も古い花街。応仁の乱のあと、北野天満宮修復の際、残った材で七軒の茶屋を建てたのが始まり。歌舞練場の戸が少し開いていたのでなかをのぞくと、華やかな座敷が見えた。

夏はビヤガーデンも開催されるようだ。

東向観音寺

ご本尊は、筑紫の観世音寺より請来したという菅原道真公制作の十一面観音像。かつては北野天満宮の神宮寺だったという。明治維新後の廃仏稀釈で境内にあった多くの神宮寺は取り壊されてしまったようだ。

北野天満宮

“北野の天神さま”と親しまれ、学問の神様として全国から受験生がお詣りに来る天満宮の総本社。現在の本殿は豊臣秀頼が造営した八棟造りの絢爛豪華な桃山建築。秀吉が開いたという北野大茶湯は大変なスケールであったという。庶民とかけ離れた北野さんのイメージだが、毎月25日は天神さんの日。参道には終日所狭しと露天商が立ち並ぶ。骨董品も並んで大変な人出となる。境内には**文子天満宮**がある。道真公の乳母多治比文子が最初に祠を建て道真公を祀ったという。元宮。また第一の摂社、地主神社—北野天満宮創建以前に祀られていた神社—も丁重に祀られている。

【所感・雑感・反省点、申し送り事項など】

降水確率 10%/50%。本来なら中止のところ、雨は午後2時以降という予報から、スタッフ全員で検討して実施をきめた。予定の14時少し前に解散したが、幸い降り出したのは夕刻から。

曇り空はむしろ歩きやすく、山下さんの説明に集中することができた。

京都の足は市バスが主流。地下鉄と違って時間はかかるが、街並みを眺めながらの移動も悪くない。

今回は観光地としてはマイナーな西陣界隈を巡った。少しは知っていたはずの場所なのに知らなかったことだらけで、街歩きは楽しいと実感した。

同じ場所でも時代によって、貴族の散歩道であったり、庶民の葬送の地で、死体が放置される場であったり、戦の陣が置かれ、多くの血が流された場所であったりと、さすが京都は歴史の層が厚いと思った。庶民の生活の場である西陣界隈に、こんな歴史があったのか！と再発見した次第である。

反省点として

街歩きの場合、“降水確率60%以上で中止”でいいかもしれない。

